

vRealize Orchestrator Operations Client の使用

vRealize Orchestrator 7.5



vmware®

VMware Web サイトで最新の技術ドキュメントをご確認いただけます。

<https://docs.vmware.com/jp/>

VMware の Web サイトでは、最新の製品アップデートを提供しています。

本書に関するご意見、ご要望をお寄せください。フィードバック送信先：

docfeedback@vmware.com

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2008–2018 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標](#).

内容

- 1 VMware vRealize Orchestrator Operations Client の使用 4
- 2 VMware vRealize Orchestrator Operations Client 5
 - [vRealize Orchestrator Operations Client へのログイン](#) 6
 - [vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザーの責任](#) 6
 - [vRealize Orchestrator Operations Client におけるユーザーの責任の追加と管理](#) 7
 - [vRealize Orchestrator Operations Client の API Explorer](#) 7
- 3 ワークフローの管理 8
 - [vRealize Orchestrator Operations Client ダッシュボード](#) 8
 - [ワークフロー ライブラリ内の標準ワークフロー](#) 9
- 4 vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローの実行 11
 - [vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザー操作の要求](#) 11
 - [vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのスケジュール設定](#) 12
 - [vRealize Orchestrator Operations Client でのスケジュール設定タスクの編集](#) 13
- 5 vRealize Orchestrator Operations Client パッケージの使用 14
 - [vRealize Orchestrator Operations Client を使用したパッケージのエクスポート](#) 14
 - [vRealize Orchestrator Operations Client へのパッケージのインポート](#) 15
- 6 vRealize Orchestrator Operations Client のメトリック データ 17
 - [vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル](#) 17
 - [パフォーマンス ビューでのワークフロー実行の表示](#) 18

VMware vRealize Orchestrator Operations Client の使用

1

VMware vRealize Orchestrator Operations Client を使用すると、ワークフローの自動化機能および新しい Orchestrator HTML5 クライアントの機能に関する情報を取得できます。

対象者

この情報は、Orchestrator ワークフローの実行と管理に役立つツールをお探しの経験豊富なシステム管理者を対象としています。

注: Operations Client は、これまでの Java Client に代わるツールではありません。

VMware vRealize Orchestrator Operations Client

2

HTML5 を使った新しいユーザー インターフェイスで Orchestrator サービスを管理します。

Orchestrator Operations Client を使用して、ワークフローを監視、トラブルシューティング、および実行できます。Operations Client は、既存の Orchestrator Java Client の機能を補足するものであり、置き換わるものではありません。Operations Client は https://<your_orchestrator_server_ip_or_dns_address>:8283 に配置されています。

REST API 通信

Orchestrator Operations Client は、Orchestrator コントロール センター サーバで実行されます。クライアントは、REST プロキシを介して Orchestrator REST API と通信します。

ワークフローの実行と管理

Orchestrator のワークフローを実行して、最近のワークフロー実行を表示します。

注: Operations Client でワークフローを作成または編集することはできません。ワークフローの作成と編集には、Orchestrator Java Client を使用します。Orchestrator Java Client の情報については、『VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用』を参照してください。

ワークフローのスケジュール 設定

Operations Client でスケジュール設定されたワークフローを作成および編集して、ワークフローの処理を自動化します。

メトリック データを使用し てワークフローを最適化する

Operations Client のプロファイル機能を使用すると、ワークフローの実行に関する有用なメトリック データを収集できます。

パッケージの管理

Operations Client を使用して、ワークフロー要素を含むパッケージのエクスポートおよびインポートを行います。

注: パッケージの作成と削除には Orchestrator Java Client を使用します。

ロールの管理

管理者権限を持つユーザーは、Operations Client でユーザーにロールを割り当てるができます。

ワークフロー要素の管理

Orchestrator 環境で利用可能なワークフローのアクション要素、プラグイン インベントリ、およびワークフロー タグを表示するほか、リソースおよび構成要素をインポートできます。

API Explorer

Orchestrator で使用できる API コマンドを検索できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator Operations Client へのログイン](#)
- [vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザーの責任](#)
- [vRealize Orchestrator Operations Client の API Explorer](#)

vRealize Orchestrator Operations Client へのログイン

Operations Client を使用すると、ワークフローの実行、監視、およびトラブルシューティングを行うことができます。

Operations Client は Orchestrator での処理の管理やトラブルシューティングに役立ちます。

前提条件

- vSphere または vRealize Automation 認証を使用して、VMware vRealize™ Orchestrator™ サーバの展開と構成を行います。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成』を参照してください。
- Orchestrator サーバが適切に実行されていることを確認します。Orchestrator コントロール センターで [設定を検証] をクリックします。

手順

- 1 Orchestrator のトップページに移動します。
- 2 [Operations Client を開く] をクリックします。
- 3 クライアントにログインするには、ユーザーの認証情報を入力します。

Orchestrator インスタンスでマルチテナントが有効になっている場合は、それぞれのシステム管理者またはテナント管理者のユーザー名、パスワード、およびテナント ID を入力します。

- 4 [ログイン] をクリックします。

vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザーの責任

Operations Client での機能アクセスと機能はユーザー権限に基づいています。

Operations Client でのユーザー権限は、管理者権限を持つユーザーによって設定されます。

ユーザー権限	説明
管理者	Operations Client ですべての機能に対するアクセス権限を持っています。
テナント管理者	vRealize Automation のテナント管理者。管理者と同じ権限を持っています。
消費者	Operations Client で読み取り専用権限を持っています。ワークフローの実行、[入力を待機中] 状態のワークフロー、およびワークフロー タグを表示できます。

vRealize Orchestrator Operations Client におけるユーザーの責任の追加と管理

Operations Client でユーザーの責任を追加および管理するには、管理者権限が必要です。

前提条件

vRealize Orchestrator サーバを vRealize Automation 認証を使用して構成します。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 新しいユーザーまたはグループを追加します。
 - a [ロールの管理] をクリックします。
 - b ユーザーおよびグループを追加するには、[追加] をクリックします。
 - c ユーザーまたはグループのユーザーの責任を選択して、[保存] をクリックします。
- 3 既存のユーザーの責任を管理します。
 - a [ロールの管理] をクリックします。
 - b ユーザー詳細の左にあるメニューをクリックします。
 - c ユーザーの責任を編集するには、[編集] をクリックします。
 - d Operations Client からユーザーまたはグループを削除するには、[削除] をクリックします。

vRealize Orchestrator Operations Client の API Explorer

Orchestrator API Explorer を利用すると、スクリプト化されたワークフロー要素で利用できる JavaScript オブジェクトのドキュメントを参照できます。

API Explorer は、Orchestrator 対応の RESTful オブジェクトの一覧を備えており、特定のオブジェクトに関連付けられている属性、コンストラクタ、および HTTP メソッドに関する情報を取得できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 ユーザー インターフェイスの右上隅にある設定アイコンを選択します。[API Explorer] をクリックします。

次のステップ

API Explorer は、ワークフロー要素のスクリプトを記述する際のリファレンスとして利用できます。

ワークフローの管理

ワークフローとは、順次実行する一連のアクションおよび決定のことです。Orchestrator は、一般的な管理タスクを実行するワークフローのライブラリを提供します。また Orchestrator には、ワークフローが実行する個々のアクションのライブラリも用意されています。

ワークフローは、特定の順で実行されたときに、仮想環境において特定のタスクまたは特定のプロセスを完了するアクション、決定、および結果を組み合わせます。ワークフローでは、仮想マシンのプロビジョニング、バックアップ、通常のメンテナンスの実行、メール送信、SSH 操作、物理インフラストラクチャの管理、および他の汎用ユーティリティ操作などのタスクを実行します。ワークフローは、入力を機能に応じて受け付けます。定義されたスケジュールに従って実行するワークフローや、特定の予測イベントが発生した場合に実行するワークフローを作成できます。情報は、ユーザー、他のユーザー、別のワークフローまたはアクションによって提供するか、アプリケーションからの Web サービス呼び出しなどの外部プロセスによって提供できます。ワークフローでは、実行する前に情報の検証およびフィルタリングを行います。

ワークフローは他のワークフローを呼び出すことができます。たとえば、いくつかの異なるワークフローにおいて、仮想マシンを開始するワークフローを再利用できます。

ワークフローは、Orchestrator クライアント インターフェイスの統合開発環境 (IDE) を使用して作成できます。この IDE では、ワークフロー ライブラリにアクセスでき、ワークフロー エンジンでワークフローを実行できる機能が用意されています。このワークフロー エンジンでは、Orchestrator にプラグインした外部ライブラリからのオブジェクトを使用することができます。この機能を使用すると、プロセスのカスタマイズやサードパーティ アプリケーション提供の機能を実装できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator Operations Client ダッシュボード](#)
- [ワークフロー ライブラリ内の標準ワークフロー](#)

vRealize Orchestrator Operations Client ダッシュボード

Orchestrator Operations Client ダッシュボードは、Orchestrator ワークフローを監視するための便利なツールを提供します。

Operations Client ダッシュボードは、ワークフローの監視、管理、およびトラブルシューティングを実行するのに役立つツールです。ダッシュボードの情報は、5 つのパネルに表示されます。

ウィンドウ	説明
ワークフローの実行	実行中、待機中、および失敗したワークフローの実行の数に関する視覚的なデータを提供します。
お気に入りワークフロー	お気に入りに追加されたワークフローを表示します。Java Client でワークフローに [お気に入り] タグを追加して、パネルに表示します。
入力を待機中	追加のユーザー操作が必要な保留中のワークフローの実行が表示されます。これらのワークフローは、ユーザー インターフェイスの右上隅の通知メニューにも表示されます。
最近のワークフローの実行	最近のワークフローの実行を管理します。ワークフローの実行の名前、状態、開始日、および終了日を示します。
前回失敗したワークフローの実行	失敗したワークフローの実行の特定に役立ちます。失敗した実行の開始日と終了日を示します。ワークフローのプロファイルが有効になっている場合、失敗したワークフロー要素がワークフロー スキーマで表示されます。詳細については、 vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル を参照してください。

ワークフロー ライブラリ内の標準ワークフロー

Orchestrator には、ワークフローの標準ライブラリが付属しています。このライブラリを使用して、仮想インフラストラクチャでの操作を自動化することができます。標準ライブラリ内のワークフローは、読み取り専用の状態でロックされています。標準ワークフローをカスタマイズするには、そのワークフローの複製を作成する必要があります。作成した複製ワークフローまたはカスタム ワークフローは完全に編集可能です。

vCenter Server ライセンスのタイプに応じて Orchestrator サーバを操作する場合に所有できるさまざまなアクセス権については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成』を参照してください。

ワークフロー ライブラリの内容には、Orchestrator クライアントの [ワークフロー] ビューからアクセスできます。標準ワークフロー ライブラリは、次のフォルダでワークフローを提供します。

構成	認証設定、データベース、証明書、ライセンスを構成し、Orchestrator をトラブルシューティングします。
JDBC	Orchestrator に付属する SQL プラグインを使用して、ワークフローとデータベースの間の通信をテストします。
ロック	ワークフローが使用中のリソースをロックできる、自動プロセスのロック メカニズムを示します。
メール	ワークフローとの間で電子メールを送受信します。
Orchestrator	特定の一般的な Orchestrator 操作を自動化します。
SQL	データベースおよびデータベース テーブルを管理したり、SQL 操作を実行したりします。
SSH	Secure Shell v2 (SSH-2) プロトコルを実装します。これらのワークフローでは、パスワードとパブリック キーベースの認証を使用して、リモート コマンドおよびファイル転送セッションを実行できます。SSH 構成を使用すると、安全な接続を経由して Orchestrator インベントリで公開するオブジェクトへのパスを指定できます。

トラブルシューティング	アプリケーション設定およびログ ファイルを、トラブルシューティングのために VMware サポートに送信できる ZIP アーカイブにエクスポートします。
vCenter Server	Orchestrator を使用して自動化する管理プロセスにすべての vCenter Server 関数を組み込むことができるように、vCenter Server API の関数にアクセスします。
ワークフロー ドキュメント	ワークフローまたはワークフロー カテゴリに関する情報を PDF ファイルとしてエクスポートします。
XML	ワークフローで XML ファイルを処理するために使用できる Document Object Model (DOM) XML パーサーです。

vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローの実行

Orchestrator Operations Client でワークフローを実行することで、処理を自動化できます。

前提条件

vCenter Server プラグインが設定されていることを確認します。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成』を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [ワークフロー]-[ライブラリ]の順に選択します。
- 3 検索ボックスに実行するワークフローの名前を入力します。
- 4 ワークフロー パネルの下メニューで、[実行]をクリックします。
- 5 (オプション) ワークフローに必要な入力パラメータを入力し、[実行]をクリックします。

注: ワークフローは実行中に追加入力を必要とする可能性があります。詳細については、[vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザー操作の要求](#)を参照してください。

次のステップ

Orchestrator Profiling を使用して同じワークフローを実行できます。プロファイルを使ってワークフローのトラブルシューティングや自動化処理の最適化を行うことができます。詳細については、[vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル](#)を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザー操作の要求](#)
- [vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのスケジュール設定](#)

vRealize Orchestrator Operations Client でのユーザー操作の要求

ワークフローが完了する前に、追加のユーザー入力を要求できます。

追加のユーザー操作を必要とするワークフローは、ユーザーから必要な入力パラメータを受け取るまで処理を一時停止します。ワークフローは必要な情報を入力できるユーザーを定義し、その定義に応じて操作の要求を指示します。

前提条件

- 少なくとも 1 つのワークフローが [待機中] であることを確認します。ワークフロー実行のステータスに関する情報は、Operations Client ダッシュボードの [最近のワークフロー実行] パネルで確認できます。

手順

- 1 選択したワークフローを実行します。
- 2 Operations Client ダッシュボードの [入力待機中] パネルから、ワークフローを選択します。

注: 追加入力が必要なワークフローは、ダッシュボードの右上隅にある通知アイコンにも表示されます。

- 3 要求された入力パラメータを指定し、[応答] をクリックします。

これでワークフローの実行を続けるために必要な入力パラメータが指定されました。

vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのスケジュール設定

スケジュール設定を利用するとワークフローの実行を自動化できます。

ワークフローの実行をスケジュールリングする際は、スケジュール設定タスクを実行する日付、時刻、および実行間隔を設定します。

前提条件

ワークフローをスケジュールリングするには、**実行権限**が必要です。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [ライブラリ] メニューから、ワークフローを選択します。ワークフロー パネルで、[スケジュール] をクリックします。
- 3 [新規スケジュール設定タスク] ページには、[全般]、[スケジュール設定]、および [ワークフロー] の各パラメータカテゴリがあります。

注: [ワークフロー] パラメータ カテゴリは、入力パラメータが必要なワークフローにのみ表示されます。

パラメータ	説明
Name	スケジュール設定タスクの名前。
説明	スケジュール設定タスクの目的についての簡単な説明。
開始日	ワークフローの実行がスケジュール設定されている最初の日付および時間。
終了日	スケジュール設定タスクの実行を停止する日付および時間。

パラメータ	説明
過去の場合は開始する	スケジュール設定されている時間を過ぎてしまっている場合に、ワークフローを開始するかどうかを選択します。[はい] にすると、スケジュール設定されたワークフローはすぐに開始されます。[いいえ] にすると、繰り返しが設定されている次のスケジュールでワークフローが開始されます。
繰り返し	スケジュール設定タスクを実行する間隔を設定します。
ワークフロー	ワークフローの入力パラメータを設定します。

4 [作成] をクリックします。

これでワークフローのスケジュール設定タスクが作成されました。[ワークフロー]-[スケジュール設定済み] に、スケジュール設定されたワークフローが表示されます。スケジュール設定タスクを削除するには、スケジュール パネルの [削除] をクリックします。

vRealize Orchestrator Operations Client でのスケジュール設定タスクの編集

スケジュール設定タスクを編集することで、スケジュール設定されたワークフローのパラメータ（日付、時刻、繰り返しなど）を変更できます。

前提条件

スケジュール設定されたワークフロー タスクを作成します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [ワークフロー]-[スケジュール設定済み] からスケジュール設定タスクを選択します。
- 3 ワークフロー パネルで [編集] をクリックします。
- 4 変更するスケジュール パラメータを編集して、[保存] をクリックします。

注: スケジュール設定タスクの作成時には、入力パラメータのセットは読み取り専用となっており、編集できません。これらのパラメータを変更するには、このワークフロー用に新しいスケジュール設定タスクを作成します。

vRealize Orchestrator Operations Client パッケージの使用

5

Orchestrator Operations Client を使用してパッケージをエクスポートおよびインポートします。パッケージを利用すれば、ワークフロー要素をバックアップして他の Orchestrator インスタンスで使用できます。

Operations Client 上でパッケージをエクスポートおよびインポートできます。パッケージにはワークフロー、およびアクション、設定、リソースなどの関連のある要素が含まれます。あるワークフローをパッケージに含めると、指定したそのワークフローに関連付けられている要素すべてが自動的に追加されます。

注: Operations Client を使用できるのは、パッケージのエクスポートとインポートを行う場合に限られます。パッケージの作成および削除には、Java Client が必要です。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用』の「パッケージの作成」を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator Operations Client を使用したパッケージのエクスポート](#)
- [vRealize Orchestrator Operations Client へのパッケージのインポート](#)

vRealize Orchestrator Operations Client を使用したパッケージのエクスポート

Orchestrator Operations Client を使用すると、ワークフロー パッケージをエクスポートできます。

前提条件

エクスポートする要素を含むパッケージを作成します。パッケージの作成は Orchestrator Java Client で行います。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用』の「パッケージの作成」を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [パッケージ] ビューを選択します。
- 3 ワークフロー パネルで、[エクスポート] をクリックします。

4 (オプション) 他のエクスポート オプションを選択します。

オプション	説明
パッケージにバージョン履歴を追加する	パッケージのバージョン履歴をエクスポートします。
パッケージに構成の属性値を追加する	構成要素の属性値をエクスポートします。
パッケージに構成の SecureString 属性値を追加する	SecureString 構成属性値をエクスポートします。
パッケージにグローバル タグを追加する	グローバル タグをエクスポートします。

5 [OK] をクリックします。

注: 拡張子が **.package** のファイルは、ローカル マシン上のデフォルト フォルダに保存されます。カスタム フォルダを設定するには、ブラウザ設定を変更します。

これでパッケージが正常にエクスポートされました。他の Orchestrator サーバ用にパッケージをインポートします。

vRealize Orchestrator Operations Client へのパッケージのインポート

Orchestrator Operations Client を使用して、ワークフロー パッケージをインポートできます。パッケージをインポートすることで、ある Orchestrator サーバの Orchestrator 要素を別のサーバで再利用できます。

前提条件

- 変更した標準の Orchestrator 要素をすべてバックアップします。
- リモート サーバ上で、インポートする要素が含まれるパッケージを作成し、エクスポートします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [パッケージ] ビューを選択します。
- 3 [インポート] をクリックし、インポート対象の **.package** ファイルが保存されている場所を参照します。[開く] をクリックします。
- 4 パッケージのインポート情報に関するウィンドウが新たに表示されます。
 - a [全般] タブには、名前、説明、パッケージに含まれる項目数などの、インポートされるパッケージに関する情報と、証明書の情報が表示されます。
 ファイルをインポートする前に、移行元 Orchestrator インスタンスの発行者証明書を信頼するよう求められる場合があります。
 - b [パッケージ要素] タブには、インポート ファイルに含まれるアイテムが一覧で表示されます。パッケージ内の要素のバージョンが、サーバ上のバージョンより新しい場合は、インポート対象の要素が自動的に選択されます。前のバージョンの Orchestrator 要素は、手動で選択する必要があります。
 - c パッケージから構成要素の属性値をインポートしない場合は、[構成の属性値をインポートする] の選択を解除します。
 - d タグをインポートする場合はドロップダウン メニューから選択します。

5 [インポート] をクリックします。

vRealize Orchestrator Operations Client のメトリック データ

6

Orchestrator プロファイルとパフォーマンス ビューのメトリックを使用して、ワークフロー実行のトラブルシューティングおよびパフォーマンスの最適化を行います。

Operations Client には、ワークフロー実行のパフォーマンスを向上させるのに役立つ 2 つの機能があります。プロファイル機能では、ワークフローの実行中にメトリック データを収集し、実行が終わったタイミングでそのデータを表示します。Operations Client では、すべてのワークフローの実行に対して、デフォルトでワークフローのプロファイルが有効になっています。[コントロール センター] - [詳細設定] - [すべてのワークフロー実行をプロファイル] の順に開いていくと、自動プロファイルを無効にすることができます。手動でのプロファイル手順については、[「vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル」](#) を参照してください。

Operations Client におけるメトリック データのその他のソースは、[ワークフローの実行] ページの パフォーマンス ビュー オプションにあります。詳細については、[「パフォーマンス ビューでのワークフロー実行の表示」](#) を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル](#)
- [パフォーマンス ビューでのワークフロー実行の表示](#)

vRealize Orchestrator Operations Client でのワークフローのプロファイル

ワークフローの実行をプロファイルして、Orchestrator での処理のトラブルシューティングや最適化を行うことができます。

Operations Client のプロファイル機能を使用すると、ワークフローの実行に関する有用なメトリック データを収集できます。このデータを使用してワークフローのパフォーマンスを最適化できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [ライブラリ] メニューから、ワークフローを選択します。ワークフロー パネルで、[アクション] - [プロファイル] の順にクリックします。

注: デフォルトでワークフローのプロファイルが有効になっている場合は、通常通りワークフローを実行することでメトリック データを収集できます。

- 3 プロファイル機能は、ワークフローの実行中および完了時にメトリック データを収集します。ワークフローのプロファイルにより、ワークフロー全体に関するメトリックと特定のワークフロー要素に関するメトリックの 2 種類のデータを取得できます。表示するメトリックは、ワークフローの実行画面の右上隅にある、ドロップダウンメニューからフィルタして表示することができます。

メトリック	説明
合計実行時間	ワークフロー実行の経過時間の合計。
移行総数	ワークフロー要素間の移行の総数を示します。
合計経過時間	特定のワークフロー要素を実行した時間の合計を示します。
最大経過時間	最も低速のワークフロー要素を示します。
実行項目数	特定のワークフロー要素を実行した総数を表します。

次のステップ

プロファイルによって収集されたデータを使用して、Orchestrator Java Client でワークフローの編集や最適化を行うことができます。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用』のドキュメントを参照してください。Operations Client で収集されるその他のメトリック データについては、「[パフォーマンス ビューでのワークフロー実行の表示](#)」を参照してください。

パフォーマンス ビューでのワークフロー実行の表示

パフォーマンス ビューでワークフローの実行を表示すると、有用なメトリック データを得ることができます。

前提条件

Operations Client または Java Client のいずれかで、ワークフローを実行します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Operations Client に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- 2 [ワークフロー] - [ライブラリ] - [実行] の順に移動します。
- 3 [ワークフローの実行] ページの右上隅にある [パフォーマンス ビュー] オプションを、オンに切り替えます。
- 4 ワークフローの実行テーブルに表示されるメトリック データを表示します。

メトリック	説明
所要時間	ワークフロー実行の経過時間の合計。
サイズ (バイト)	データベースに保存されているワークフロー トークンのサイズ。このメトリックを使って、ワークフロー実行のチェックポイント処理で消費されるリソースを評価できます。
CPU 時間	ワークフロー実行スレッドの実行時間を取得します。 <small>注: ワークフローが追加入力を待機しているときなど、ワークフローの実行が一時停止している場合、このメトリックは完了前に発生するランタイム スレッドだけを取得します。</small>
プラグイン時間	ワークフロー実行で使用されているプラグインの名前と合計実行時間が表示されます。

次のステップ

取得したメトリックを使用して、ワークフローの編集や最適化を行うことができます。